188
613

横濱の港灣

188-613
1200701784510

Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Kodak Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© Kodak, 2007 TM: Kodak

帝國圖書館藏

188-613

はしがき

本書は大横濱建設記念式を機とし、横濱港の概況を記述したものでありまして、其の内容は事實の描寫に重きを措きましたが、何分震災後其の資料に乏しきと日數の許さゞりし關係上尚遺憾の點か鮮くありませんが、何れ他日稿を重ぬるの際、補正を期し度と念ひます、大方識者に於かれても御氣附の點は何卒御垂示を願ひます。

昭和二年六月二日

横濱市港灣部長　原　靜雄

內交 昭和二 帝圖

目次

緒言……一頁
第一章　港灣の沿革……一
第二章　市勢……四
一　地勢……四
二　面積……五
三　人口……五
四　行政區劃……五
五　財政……五
第三章　港灣の狀況……六
一　位置……六
二　面積……六
三　潮位……六

四　海底の地質……七
五　氣象……七

第四章　港灣の設備

……一二
一　防波堤……一二
二　埠頭用地及岸壁……一二
三　棧橋……一三
四　繫船浮標……一四
五　防波堤內投錨地……一四
六　船渠……一五
七　鐵道……一六
八　物揚場……一六
九　港內艀船溜及貯木場……一六
一〇　上屋及倉庫……一六
一一　起重機……一七

一二　艀船及曳船……一八
一三　標識……一八
一四　無線電信……一八
一五　船舶信號所……一八
一六　水先案內……一九
一七　給炭……一九
一八　給水……一九
一九　給油……二〇
二〇　通船……二〇
二一　生絲檢查所……二一
二二　輸出絹織物檢查所……二一
二三　動物檢疫所……二一
二四　植物檢查所……二二
二五　殺鼠船……二二

二六　港內塵芥艀……二二
二七　揮發物貯庫……二二
二八　爆發物貯庫……二三
二九　海員ホーム……二三
三〇　海員養成所……二四
三一　海員病院……二四
第五章　港灣の利用……二四
一　內國貿易……二四
二　外國貿易……二五
三　港灣統計……二六
第六章　港灣の修築……二七
一　最初の修築工事……二七
二　第一期海面埋立工事……二八
三　第二期海面埋立及陸上設備工事……二八

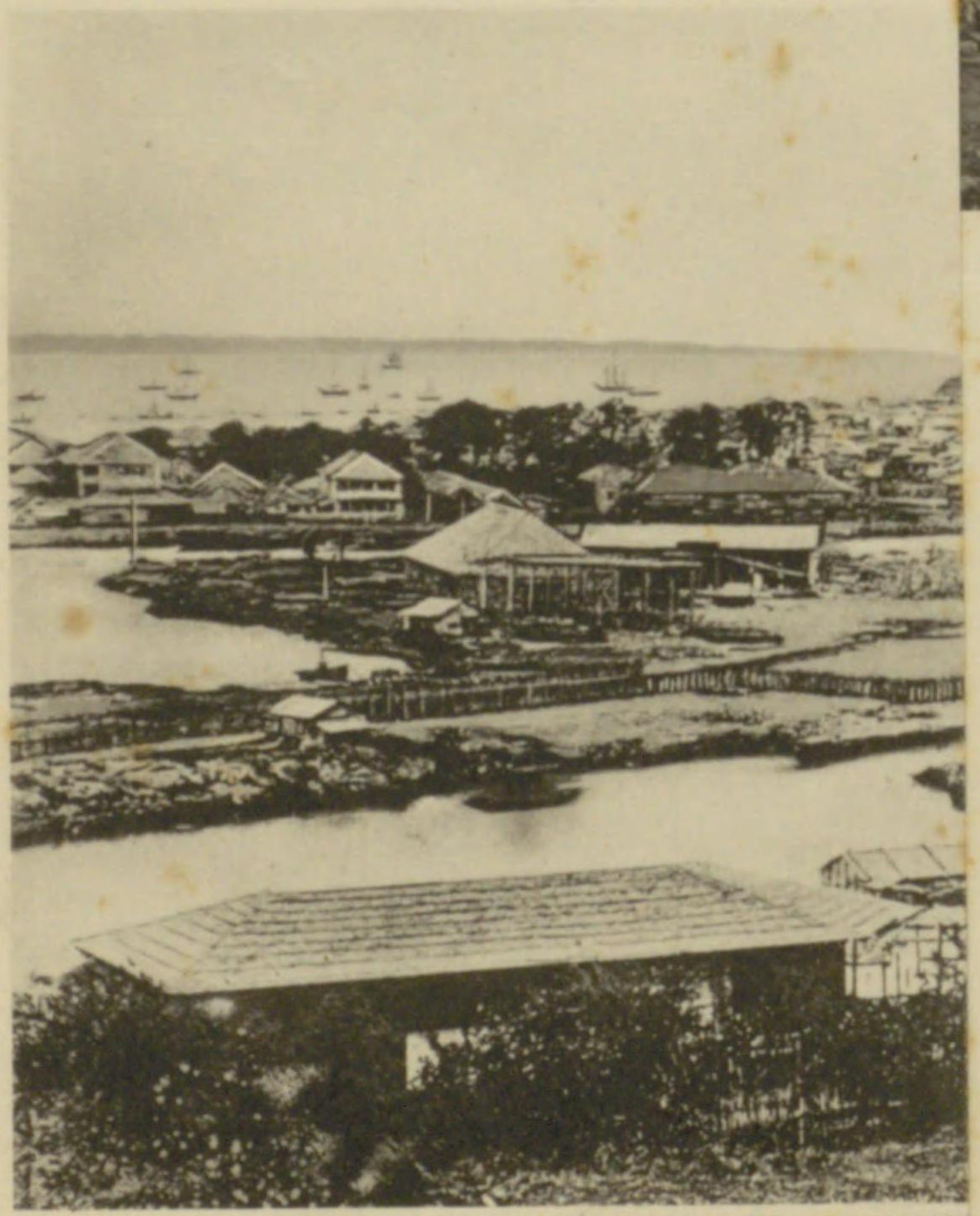
四　第三期修築工事……三九
五　震災復舊工事……四一
六　擴張計畫……四二
七　擴張工事……四五
第七章　市港灣部……四七
一　港灣統計事業……四八
二　臨時橫濱港灣委員會……四八
結　言……四九

寫眞口繪

橫濱の今昔
橫濱港（其の一）　船舶信號所より港內を望む
橫濱港（其の二）　橫濱船渠工場より港內を望む
橫濱港（其の三）　水上警察署屋上より棧橋を望む

附圖

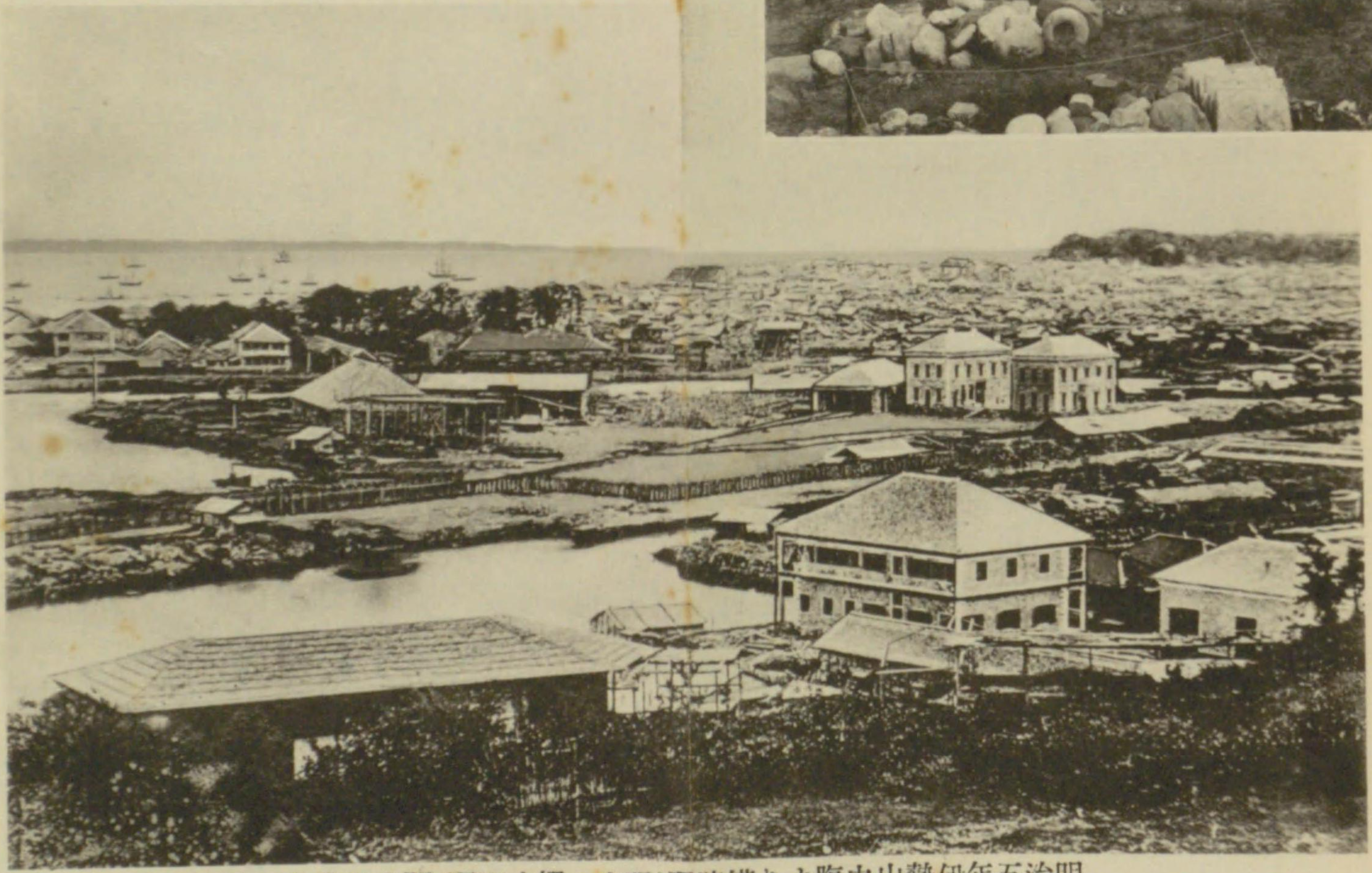
嘉永七年ペルリ提督上陸當時(開港前)横濱村外六ヶ村圖
文久三年御開港横濱正景
明治二十三年横濱實測圖
市埋立計畫圖
埋立地割圖



驛(現在の櫻木町驛)關内及港内を望む

横濱の今昔

昭和二年伊勢山中腹より櫻木町驛關內及港內を望む



明治五年伊勢山中腹より横濱驛(現在の櫻木町驛)關內及港內を望む

泊 船

横濱港

（其の一）

船舶信號所より港內を望む（昭和二年五月撮影）

横濱港
（其の一）

船舶信號所より港内を望む（昭和二年五月撮影）

横

横濱船渠工場

横濱港
（其の二）

横濱船渠工場より港内を望む（昭和二年五月撮影）

水上警察署屋上

横濱港

（其の三）

水上警察署屋上より棧橋を望む（昭和二年五月撮影）

横濱の港灣

緒言

帝國圖書館藏

帝國の玄關として將又世界の著名なる商港としての一大使命を負へる横濱港は、其の設備漸次充實し活躍の機運に向へる際、不幸未曾有の大震火災に遭遇して一頓挫を來たしたが、直ちに復舊工事を進めて今や殆んど其工は竣へた。然し四圍の狀況は單に復舊に止まらず、更に層一層の建設に猛進するの急務に迫られて居る。故之這般隣接町村を編入して出現したる大横濱は、背面の諸設備と相俟つて茲に港灣設備の完成を企圖し、劃時代的の計畫を樹立するに至つた。本書は本港の設備を簡約に說明して其の過程を知り、將來の完備に資せんとするのである。

第一章　港灣の沿革

嘉永六年六月二日米國使節提督ペルリ軍艦二隻を帥ひて浦賀に來り、修交を求

め更に翌七年正月再び軍艦七隻(後に二隻を加ふ)を帥ひて來航し、同十五日江戸灣に進航し本牧沖に投錨した。同二十五日次官アダムスは我全權林大學頭等と横濱村に急設の應接所で會見した。之が我が横濱に米人の足跡を印した最初である。二月十日にはペルリは九隻の艦隊より將卒五百人を出し、廿七隻の艦艇に分乘して上陸し、艦隊よりは祝砲を放つた。そして彼我全權は前記の應接所で會見し、其後折衝數次の結果下田港を開き十八ヶ月の後に領事を派遣することを約した、其應接場所は今の英國領事館内玉楠の現存する附近である。次で安政三年にハルリスは日本最初の米國總領事として下田港に來航し、頻りに運動の結果井伊大老の幕僚と神奈川で通商條約に調印した。之れが世に云ふ神奈川假條約であつて、實に安政五年六月十九日である。此條約に依り安政六年六月二日神奈川が開港されたが、神奈川は東海道の宿驛であるから、幕府は兎角物議を起し易いことを慮り、各國領事の反對したにも拘らず神奈川の一部と看做して横濱を開き、諸般の設備を進めた。斯くて其年神奈川運上所を神奈川縣廳(目下建築中)所在の地に設け、奉行並支配向役々出張し、外事及關稅事務を取扱ひ英一番の西方に改所、即輸入貨物檢査

所を置き、其東北海岸に二個の突堤を築造して東を外國人波止場に、西を内國商人物揚場に充てた。内國商人物揚場は現在ホルト倉庫のある所である。

安政六年(六月二日開港以後)中の貿易總額は百十二萬餘圓なりしも、其の翌萬延元年には六百十九萬二千圓に達した。其の當時の輸出は品目に制限を設け、或は全く禁止したのもあつた。生絲の如きは一旦之を江戸に廻送し、内國人の需要を充たし其剩餘を輸出したのである。素より上屋倉庫等の設備を缺き、貨物は雨露に曝されて居た。元治元年正月外國人波止場の東現在ホテルニューグランド建設地の前面に波止場を增設し、東波止場新波止場又は佛蘭西波止場と稱し、以後曩に建設したる東西兩突堤は西波止場と稱せらるゝに至つた。尙新波止場に改所を設け東運上所と稱したが、慶應二年十月大火災の厄に遭ひ類燒したので、同三年三月元貿易倉庫所在地(現今生絲檢査所の位置)に横濱役所を設け同時に西波止場の海面を埋立て石造廳舍を建設し西運上所と稱し、英一番西の改所を閉鎖した。明治四年十二月前記の神奈川運上所を横濱運上所と改稱し、翌五年一月より國內各港の運上所を管理せしめ稅關本局と稱したが、同七年に至り單に濱濱稅關と稱するに至つたのである。

第二章　市勢

開港後の横濱は明治元年に燈臺が建築され、二年に京濱間の電信が架設され、三年に爲替會社（第二銀行の前身）商社（取引所の前身）が設立され、市場も許可され、五年には京濱間の鐵道が開通し、瓦斯事業も完成し、八年には玉川上水工事も落成し、各方面の文化的事業を施設して止まる所を知らぬ有樣であつた。明治二十二年には市制を施行し、人口十二萬千九百八十五人を算した。面積は埋立地の増加したるに拘らず僅に〇方里三五に過ぎなかつた。然るに三十四年及四十四年に於て前後二回に隣接町村を編入し、面積二方里三八、人口四十四萬四千三十九人に膨脹した。然るに大震火災に遭ひ一旦殆ど全滅したが獅子奮迅の勢を以て、鋭意復興に努力し、漸次施設を恢復し、尙昭和二年に至りては橘樹、久良岐二郡内の二町七村を編入して玆に大横濱を出現したのである。今、横濱市の概況を見るに

一　地勢

北東より南東に至る間は海灣に面し、南西北の三面は陸地連なり丘陵其間を斷

續し、市街は港を半圓形に圍繞して居る。

二　面積

八方里六八

三　人口

五十一萬五千八十一人

内在留外人は四千二百二十九人であつて、最も多きは支那人、次は英人、米人、獨人、佛人、露人等の順位である。

四　行政區劃

市内町數百八十六ヶ町

市役所本廳を港町一丁目に置き、鶴見、程ヶ谷、大岡川、旭、大綱、城郷、西谷、日下、屏風浦に出張所を置いた。

五　財政

昭和二年度歳入出豫算は

歳入　約　四千二十二萬圓

歳出　約　四千二十二萬圓

第三章　港灣の狀況

一　位　置

北緯三十五度二十七分
東經百三十九度四十分

二　面　積

港界線內面積　約千百六十萬坪
大防波堤內面積　約三百五十萬坪
内
在來防波堤內　約百五十萬坪
在來防波堤外　約二百萬坪

三　潮　位

港內に於て明治四十年以降十二ヶ年間の觀測にかゝる潮位は朔望平均干滿の

差六尺五寸で、最大潮位は滿潮位に於て朔望平均より一尺五寸高く、干潮位に於て朔望平均より八寸低い。

四　海底の地質

港內の海底地質は多くは泥土で、鶴見川尻附近には細砂を交へ何れも繫錨に最も適當する。

五　氣　象

イ　風位及風速

大正元年以降昭和元年迄の間の觀測によれば、風位北々西のもの最も多く、其風速の平均は一秒時三米一である。又四季に於ける風向の變化を見るに、春季は北風最も多く北東風竝南西風之に次ぎ、其他の風位は極めて少ない。夏季は南西風最多で、北東風及北風、南風の順位である。其他は多くない、秋季は北風最多で北東風及北々西風之に次ぎ、南寄りの風に至りては著しく寡少である、冬季は北風著しく繁く北々西風之に次ぐも、其半に過ない、南寄りの風に至りては極めて稀である。

今各年風速の最大なるものを左に掲ぐ

年次	風位	風速(米秒)	年次	風位	風速(米秒)
大正元年	南南西	二〇、〇	大正九年	北々西	一四、一
〃二年	北東	一七、二	〃十年	南々西	一四、二
〃三年	東	二三、六	〃十一年	東南東 東	一八、八 一八、八
〃四年	南	一四、六	〃十二年	不明	
〃五年	北々東	二〇、三	〃十三年	北東	一七、二
〃六年	南々西	二二、九	〃十四年	北	一二、八
〃七年	南々西	一五、二	〃十五年 昭和元年	北東	一四、一
〃八年	南西	一四、二			

又右明治三十年以降昭和元年迄(大正十二年を除く)の間で各季の最強風速及其方位を見るに

春季　南西　一七、三米(明治三十一年五月)
夏季　東　二三、六(大正三年八月)
秋季　北東　三四、一(明治三十五年九月)
冬季　北々東　二〇、二(明治三十年一月)

であつて、明治三十五年九月の北東風は實に異常である。

ロ　氣　溫

冬季氷點下の氣溫は概ね十二月上旬より翌年三月中旬に至る間に實現するのである、此の季には時々攝氏氷點下七度を下ることはあるが、通常氷點下四度乃至五度が極度である、又夏季に最も炎威を逞しふするは、七八月であつて、攝氏三十三度乃至三十四度を普通とし時々三十六度に達したことがある。

ハ　雨　量

春季に入れば雨日が多くなると共に雨量を增し、一ヶ月百二十粍より百五十粍に及び、雨日は時々月の半を占むることがある、夏季は雨量增大し一ヶ月二百粍に近づき、時々此量を超ゆることがある、秋季も雨日雨量共に多く、特に九月は最も多く雨量一ヶ月二百粍を超ゆるも、晩秋に至れば其量半減し、冬季に至れば雨日雨量共に急減し、十二月は最も寡雨の時期である、左に明治三十年

より昭和元年（内大正十二年を除く）に至る各月の平均雨量並一日及四時間の最多雨量を表示する。

月別	一ケ月平均雨量（粍）	一日中最多雨量（粍）	四時間最多雨量（粍）
一月	七三、三	五一、八	三五、六
二月	八四、六	八六、一	四一、七
三月	一二七、六	六五、八	四四、一
四月	一四六、九	八四、九	四六、〇
五月	一五五、一	一三八、一	七二、〇
六月	一八〇、八	一五八、五	八〇、四
七月	一六四、六	一五〇、二	八一、八
八月	二〇一、九	一五一、二	八三、九
九月	二七一、四	二六二、五	一四一、五
十月	二一一、三	一四八、九	九五、二
十一月	九九、〇	六九、三	五一、九
十二月	六五、三	七三、三	四九、六
合計	一、六六二、八		

二　天氣

冬季は晴天が多く、春季は氣候の推移緩慢で天氣の變化繁く、六月の梅雨期に入れば雲量多く雨日加はり、夏季は雷雨又は深厚なる低氣壓の爲め往々天氣が急變し、九月には暴風雨を見、大體に於て秋季は天氣の變化が急で降雨の時間も甚だ短かい。

今自明治三十年至昭和元年間に於ける天氣の平均日數を擧くれば左の通である。

月別	快晴	曇	降水	暴風日數（一〇米／秒以上）	霧	雪	霜
一月	九、九	七、〇	八、七	九、五	二、八	三、二	一五、二
二月	六、七	八、八	九、一	九、五	一、〇	四、一	八、九
三月	四、六	一二、七	一四、二	一三、七	一、一	二、八	三、六
四月	二、六	一五、二	一四、〇	一二、八	〇、八	〇、二	〇、二
五月	二、六	一五、六	一四、三	一二、二	〇、九		
六月	〇、九	一九、八	一六、七	八、六	一、〇		
七月	二、〇	一六、三	一四、二	八、九	一、一		
八月	三、三	一二、七	一二、五	八、三	〇、九		
九月	一、六	一六、六	一六、五	九、四	〇、八		
十月	三、八	一五、三	一四、一	八、七	一、三		
十一月	七、六	九、二	一〇、九	八、四	一、四		一、七
十二月	一〇、〇	五、九	六、九	七、五	二、七	一、一	一二、〇
計	五六、二	一五五、二	一五二、二	一一七、五	一五、七	一一、四	四一、六

備考

本表の快晴は雨雪の有無に關らす全眼界を一〇、とした雲量の比二、〇(一回觀測)又は一、九(數回觀測)以下の日を採り、曇は同樣雲量八、〇以上の日を採つた、又降水は雨雪雹霰の何れでも水量〇、一粍以上の日を採つたのである。

第四章 港灣の設備

一 防波堤

東防波堤 延長八百九十七間

北防波堤 延長千百十七間

東北兩防波堤の間に百三十三間の港口を設くる。

西波止場の波除堤 延長百二十六間

大岡川口の波除堤 延長百十間

二 埠頭用地及岸壁

新港埠頭用地 面積七萬二千三百餘坪

同上繫船岸壁 延長九百十八間五分

内譯

岸壁番號	延長(間)	水深(尺)	岸壁番號	延長(間)	水深(尺)
一號	五三	二〇	八號	八七	二八
二號	六一	二四	九號	九九	三〇
三號	七六	二八	十號	五八	二六
四號	一一四、二	三四	十一號	五八	二六
五號	八七	二八	十二號	五一、三	二四
六號	八七	二八	計	九一八、五	
七號	八七	二八			

三 棧橋 一ヶ所

延長 二百二間

幅員 二十三間

水深 三十六尺

附屬聯絡橋 一ヶ所

四　繫船浮標　二十五個

内譯

繫船々級	個數	
一萬五千噸乃至二萬噸級	二	
一萬噸乃至六千噸級	六	
六千噸乃至四千噸級	七	
三千噸級	一〇	内三個は私設
合計	二五	

五　防波堤内投錨地

碇泊數は船級に依り增減あるも大體左記の標準である。

船級	船數
五千噸級	二
三千噸級	一四
計	一六

六　船渠

港内に於ける船渠の設備は左の如くである。

經營者	番號	渠全長	渠口幅	渠口深（滿潮時深度）
淺野船渠株式會社	一號	六六七呎	九三呎	三三呎
	二號	五〇四	七一	二三
横濱船渠株式會社	一號	六四〇	九三	二九
	二號	四〇〇	六〇	二七
	三號	四九五	六七	二二
	濕船渠	六〇〇	一八〇	二七

以上の設備により防波堤内に於ける船舶の收容能力は、六十四隻で其の内譯は左の如くである。

收容場所	隻數	收容場所	隻數
岸壁	一二	錨泊	一六
棧橋	四	浮標	二五

船渠	七
合計	六四

七 鐵道

臨港鐵道引込線六哩五、稅關構內配線五哩合計十一哩五、

八 物揚場

延長千三百九十間

九 港內艀船溜及貯木場

港內艀船溜には西波止場、新港、大岡川口、高島町、山內町、橋本町に沿接する水面約四萬四千坪の外、新に大岡川口地先水面に波除堤の築設によつて、約二萬五千坪の水面を得た、又貯木場には高島町附近並に平沼、生麥等を合し約五萬坪の水面を充てて居る。

一〇 上屋及倉庫

上屋及倉庫中主なるものを擧ぐれば左の如くである。

所在	種類名稱	棟數	坪數
稅關構內	官設上屋	一九	一九、三三二坪
〃	官設倉庫	五	七、六三三
〃	私設上屋	一一	七、四一七
〃	私設倉庫	一二	四、六七五
稅關構外	私設上屋倉庫	二一	一九、九〇二
〃	私設揮發物貯庫		一、八〇〇

一一 起重機

起重機の主なるものを擧ぐれば左の如くである。

種別	扛力	官設數	私設數
電氣	一噸半乃至五十噸	七	二
蒸氣	五噸乃至十五噸	三	三
自動車型	一噸半	一	
手動	二噸半乃至八噸	四	四
浮裝	一噸半乃至百五十噸	三	七

官設三は內務省所屬

合計		一八	一六

一二　艀船及曳船

艀船　約二千八百隻　此噸數約二十七萬噸

曳船（汽艇又は發動機船）約百九十隻　此噸數約五千六百噸

一三　標識

港界線標識として桂燈艀標を置き防波堤の港口には燈臺の設置がある。

一四　無線電信

横濱税關港務部に專用の無線電信を設けて大正十三年七月より通信を開始し、昭和二年一月に至り公衆無電通信事務を取扱ふことゝなつた、而して其の通信範圍は百五十基米以内である。

一五　船舶信號所

横濱船舶信號所は、岩石憲人氏が、大正八年十一月一日に開設した、同所には見張所「信號旗揭揚橋、觀測鏡、九千燭光標示燈、二萬燭光探照燈及無線電信機を備

ふる通信艇等の設備があつて水陸の聯絡通信を營んでゐる。

一六　水先案内

水先案内人は現在四名であつてパイロツトボート四隻を準備し案内に遺憾なきを期してゐる。

一七　給炭

給炭は民間會社の經營である、現在市内には貯炭場三十ヶ所、其總面積約二萬五千坪平均貯炭高約四萬噸に及び本船へは艀船を以て供給してゐる。

一八　給水

給水は民間會社の獨占事業であつたが市營を可とし、大正十五年十二月本市に於て約十八萬三千圓を以て之を買收した、現在に於ては岸壁に三十六ヶ所、大棧橋に十六ヶ所の給水栓を設け一船に對して一時間約九十噸の給水能力がある、又沖繫船に對しては水槽船二十艘（其總積載量千四百二十五噸）を配置して給水に努てゐる、而して其の料金の概要を擧ぐれば、

給水栓より直接給水するもの一立方米突に付二十錢

給水栓より運搬給水するもの一立方米突に付五十錢

一九　給油

民營として重油貯藏船二隻其積載量約四十噸の外、汽走給油船三隻鐵製箱船二隻其積載量二萬八千噸を備へ、ライジングサン石油會社及三井物產會社共一時間に約百五十噸乃至二百噸の給油能力がある。

二〇　通船

本港碇泊船舶と陸上との圓滑なる連絡を期する爲め、大正十四年六月、本市は横濱新港汽船株式會社、横濱開港汽船合資會社、横濱西港汽船株式會社、東波止場乘用艀船組合の營業竝財產を買收して市營事業とし、乘船料を引下げ發着所を西波止場棧橋萬國橋西詰、神奈川七軒町の三ヶ所に設置し、發着時刻を確立して一日二十八往復乃至三十七往復の定期運航の制を採り、且發動機船十三隻、艀船十五隻を使用し、以て海陸の連絡交通の機關として其の使命を達成することに努めてゐる、其の賃率の概要は左の通りである。

防波堤內　片道一人に付　三十錢

防波堤外　同　四十錢

右の外附通船通船の特別仕立貸切等に就ては夫々特別の料金を要する。

二一　生糸檢查所

農林省に於て市內北仲通に生糸檢查所を設置し輸出向生糸の檢查を行ふてゐる。

二二　輸出絹織物檢查所

神奈川縣に於て市內山下町に輸出絹織物檢查所を設置し輸出向絹織物の檢查を行ふてゐる。

二三　動物檢疫場

動物檢疫場は稅關管轄の家畜檢查場二ヶ所と農林省所管の緬羊收容所一ヶ所とがある。

イ　瀧頭家畜檢疫場

牛、三百頭、馬四十九頭、羊又は豚三十二頭の收容力があつて主として食用に供する是等動物の檢疫竝獸毛消毒を行ふてゐる。

ロ 東波止場家畜檢査場

主として蕃殖用鳥獸の檢疫を行ひ牛十七頭犬、六頭、鷄又は鶩百五十羽の收容力あり、本檢査場は近く新山下町埋立地に移轉の豫定である。

ハ 農林省横濱緬羊收容所

市内瀧頭町にあり國の輸入する緬羊の檢疫又は飼養を行ふてゐる。

二四 植物檢査所

植物檢査所は稅關内に在つて、輸移出入の植物檢査を行ふてゐる。

二五 殺鼠船

法律の規定に因り又は必要に應じ殺鼠を行ふ爲め、稅關港務部に瓦斯發生爐、汽罐冷却裝置機關、煽風器、及遠心式水喞筒等を備ふる達磨形木造船の設備がある。

二六 港内塵芥艀

港内の塵芥を處理する爲め民營事業として二十九隻の艀を使用してゐる。

二七 揮發物貯庫

新山下町埋立地に縣營の揮發物貯庫を設置する豫定で、既に市に於て敷地の工事中であるが、同所には目下建坪五百坪の民營倉庫があつて、石油、輕油等の揮發物を安全に貯藏してゐる。

二八 爆發物貯庫

神奈川縣廳の經營で、市内堀の内町に敷地七千四百六十坪、建物十一棟百九十二坪の貯庫があつて、鐵砲火藥等の爆發物を藏置してゐる。

二九 海員ホーム

本港の海員ホームは左記の如く社團法人日本海員掖濟會の建設に係るものと、横濱市の建設したものとがあるが、共に海員の保護を目的として活動してゐる。

イ 海員掖濟會設立

鐵筋コンクリート二階建延坪二百八十九坪で此の收容人員は七十名である。

ロ 市設立

鐵筋コンクリート四階建延坪三百四十坪五で和洋兩室があり、收容人員は三十一名である、之れも經營は海員掖濟會に委托してゐる。

三〇 海員養成所

本事業は日本海員掖濟會の經營に成り、普通海員養成を目的とし其收容人員は八十名である。

三一 海員病院

日本海員掖濟會に於て海員竝海員家族の保護を目的として、市內吉濱町に海員病院を設置してゐる、其の收容人員は七十五名である。

以上の外警羅消防は勿論交通の助長に關する諸設備を有して居るのである。

第五章　港灣の利用

一 內國貿易

內國貿易は輸出入總噸數年額約九百萬噸であるが、東京方面の貨物が大部分を占め、本港に於て直接陸揚の上積出をするものは、現今では年額百萬噸位で

ある、其內私設の工場倉庫等に直接出入するもの相當多く、實際公共物揚場を利用する貨物は、約其半數と看做してゐるが、尙施設の不完備を感ずるの憾かある、然し第三期修築工事に於ては岸壁を增設し、新に三千噸級の汽船八隻を繫留し得る計畫であるから、更に貨物百萬噸を取扱ひ得ることゝなるのも近きにある。

二 外國貿易

外國貿易は、明治四十二年に百五十九萬噸であつたが、大正十五年、昭和元年には五百六十五萬噸に達した、而して現在の接岸荷役能力は二百十九萬噸であるが第三期工事完成せば、岸壁には一萬噸乃至五萬噸級の汽船七隻を繫留し、更に貨物百六十萬噸を取扱ひ得べき豫定である。

而して鶴見地先より六鄕川口を横斷して、品川に至り、東京新港に達する京濱運河の開鑿が實現するに於ては京濱間の聯絡完く、運河の沿岸に工場地聯續し本港の利用は益々殷盛を極むるであらう、尙今回本市に於て着手したる埋立事業完成し、政府の豫算に追加せられたる鶴見川口より新山下町地先に達

する大防波堤の築造せらるゝ暁には、三者相俟つて本港は其の使命を全くするものと思はれる。

三　港灣統計

内外貿易の趨勢と本港利用の状況を知る爲め（大正十五年 昭和元年）に於ける主要なる統計諸表を左に擧ぐることゝした。

イ　入港船舶種別

船種	隻數	總噸數	登簿噸數
汽船	一二、九五六	二〇、七二一、四一一	一二、七四四、二六〇
西洋型帆船	四〇四	四九、三三七	三二、〇六九
日本型帆船	一五、一四二	一二一、七二二	
小蒸汽船	二、三〇二	三三、二九五	一二、四一九
發動機船	一四、〇四二	二〇五、九九三	一二、六一七
艀船	五二、一五四	二、一〇一、八九七	一、七二四、七二九
計	九七、〇〇〇	二三、二三三、六五五	一四、六二五、〇九四

備考　船舶は積載貨物の有無に拘らず汽船は總噸數二十噸以上、小蒸汽船は二十噸未滿五噸以上、帆船及艀船竝に發動機船は總噸數五噸以上積石數五十石以上のものに就き調査した、但し石數船は十石を一噸として噸數に換算したのである。以下各表は皆同樣である

ロ　入港汽船噸級別

噸數	隻數 外航	隻數 內航	隻數 計	總噸數 外航	總噸數 內航	總噸數 計
百噸未滿	—	七、八三二	七、八三二	—	三八四、九五〇	三八四、九五〇
百噸以上	—	七六七	七六七	—	一二六、六六五	一二六、六六五
五百噸以上	六	一五〇	一五六	四、七二四	一二六、四四三	一三一、一六七
千噸以上	一二三	五九〇	七一三	一九二、一五六	八六〇、五七〇	一、〇五二、七二六
二千噸以上	七〇	六九九	七六九	一七七、九四三	一、七一三、九四〇	一、八九一、八八三
三千噸以上	二一九	三九一	六一〇	七三八、九一八	一、二九九、九五五	二、〇三八、八七三
四千噸以上	三三二	一二二	四五四	一、四九〇、一五二	五三〇、七五六	二、〇二〇、九〇八
五千噸以上	五五九	四八	六〇七	三、一二五、六四八	二六三、八七八	三、三八九、五二六
六千噸以上	三一五	五	三二〇	二、〇四九、四五二	三一、六九七	二、〇八一、一四九
七千噸以上	二三九	一	二四〇	一、七七六、八二二	七、〇六一	一、七八三、八八三
八千噸以上	六七	—	六七	五六〇、九六四	—	五六〇、九六四

九千噸以上	一三一	—	一三一	一、二三一、九二五	—	一、二三一、九二五
一萬噸以上	五二	—	五二	五四六、二一四	—	五四六、二一四
一萬一千噸以上	三八	—	三八	四四〇、五四二	—	四四〇、五四二
一萬二千噸以上	七	—	七	八九、五七一	—	八九、五七一
一萬三千噸以上	二二	—	二二	二九一、七六〇	—	二九一、七六〇
一萬四千噸以上	一二二	—	一二二	一、七二八、四一〇	—	一、七二八、四一〇
一萬五千噸以上	三	—	三	四五、三一二	—	四五、三一二
一萬六千噸以上	二三	—	二三	三八七、七九五	—	三八七、七九五
一萬七千噸以上	一	—	一	一七、二五七	—	一七、二五七
一萬八千噸以上	一	—	一	一九、六九五	—	一九、六九五
二萬噸以上	一九	—	一九	四〇七、九四四	—	四〇七、九四四
二萬二千噸以上	—	—	—	—	—	—
二萬四千噸以上	一	—	一	二五、一六〇	—	二五、一六〇
二萬六千噸以上	一	—	一	二七、一三二	—	二七、一三二
二萬八千噸以上	—	—	—	—	—	—
三萬噸以上	—	—	—	—	—	—
計	二、三五一	一〇、六〇五	一二、九五六	一五、三七五、四九六	五、三四五、九一五	二〇、七二一、四一一

八 入港汽船航路別

方面別	隻數	總噸數
外國航路		
歐洲	四二六	三、二〇五、四六九
北米（東岸）	一八〇	一、二一一、〇四七
北米（西岸）	七八四	六、七一八、三八四
南米	四五	三三七、一九一
濠洲	八三	四四一、六九九
孟買	三七	二〇六、四九七
甲谷	五九	三二三、七九一
印度（孟買、甲谷陀を除く）	六一	二四九、五七五
南洋	一二五	六四四、四九一
比律賓	二九	一五五、二一一
浦鹽及沿海州	七九	三三一、〇三六
上海	一〇八	四〇一、一二四
北支那	二七五	九九六、一八八
南支那	三四	五六、六二三
其他	二六	九七、一七〇
內國航路		

ニ 入港汽船碇繋場別

臺灣	二三〇	七六〇、五〇五
朝鮮	一八四	三六〇、二三〇
沖繩	一	一、二一八
九州	四九三	一、〇五六、八八四
四國	二三	四七、四二五
中國	四八	六三、三四七
阪神	六六	一二〇、〇九九
伊勢灣	一七	一八、四八三
樺太	一六一	五〇四、五二九
北海道	五二九	一、二八二、〇〇一
南洋	二八	七六、〇六四
大東島	三一	六〇、七八五
小笠原	三二	五八、五二八
東京灣	七八六	一五九、一七七
其他	一六〇	三九三、三二四
計	五、一四〇	二〇、三三八、〇九五

碇繋場		隻數 外航	隻數 内航	隻數 計	總噸數 外航	總噸數 内航	總噸數 計
防波堤内	棧橋	三四〇	九	三四九	四、一六〇、〇八八	四〇、八二三	四、二〇〇、九一一
	岸壁	四〇七	三〇	四三七	二、八三八、九七四	九四、二七二	二、九三三、二四六
	浮標	九〇二	五二〇	一、四二二	四、八七六、三三〇	一、六三六、九六八	六、五一三、二九八
	投錨	二三九	九、九六四	一〇、二〇三	七五八、二五九	三、三九九、三五七	四、一五七、六一六
防波堤外	投錨	四六三	八二	五四五	二、七四一、八四五	一七四、四九五	二、九一六、三四〇
計		二、三五一	一〇、六〇五	一二、九五六	一五、三七五、四九六	五、三四五、九一五	二〇、七二一、四一一

ホ 横濱港出入船旅客

國籍別		乗船人員	上陸人員	計
外國航路	日本人	五、八三八	一二、四〇〇	一八、二三八
	英吉利人	九五三	八三八	一、七九一
	亜米利加人	二、二二二	四、四三三	六、六五五

へ 輸移出入貨物總數

獨逸人	九二	一二四	二一六
佛蘭西人	一一二	一三八	二五〇
伊太利人	七	三五	四二
支那人	一、〇八一	八二三	一、九〇四
其他ノ諸國人	六四〇	五七二	一、二一二
計	一〇、九四五	一九、三六三	三〇、三〇八
內國航路			
日本人	一五、一一一	一八、〇二二	三三、一三三
英吉利人	二一	九	三〇
亞米利加人	三	一	四
獨逸人	｜	三	三
佛蘭西人	一	｜	一
支那人	五	四	九
計	一五、一四一	一八、〇三九	三三、一八〇
合計	二六、〇八六	三七、四〇二	六三、四八八

種別	數量 噸	價額 圓
內國貿易		
移出貨物	四、九八九、九四五	五一三、二八五、七六〇
移入貨物	四、〇二〇、七六八	二五九、〇四七、六四〇
計	九、〇一〇、七一三	七七二、三三三、四〇〇
外國貿易		
輸出貨物	三八六、七六五	七六二、三〇五、六四九
輸入貨物	五、二六〇、〇五一	七四一、六六二、七一一
計	五、六四六、八一六	一、五〇三、九六八、三六〇
合計	一四、六五七、五二九	二、二七六、三〇一、七六〇

ト 內國貿易移出主要貨物

品名	數量 噸	價額 圓
砂糖	三七八、八五一	九六、五〇九、四七二
鐵	四五四、四四二	四八、二三七、六八〇
機械及同部分品	三〇、六一二	三六、六四二、八〇五
木材及板	九〇四、四七六	三四、二二七、二五六

棉花	二九、二九八	三〇、一一〇、八六九
石炭	一、六一六、〇二〇	二一、八〇二、九四〇
羊毛	一〇、九一一	一八、七三七、四六七
麥	一三五、七九〇	一七、二一三、〇三四
豆糟	一七四、〇四二	一四、七〇五、〇四四
米	七一、三四三	一二、八六四、三〇二
其の他の諸品	一、一八四、一六〇	一八二、二三四、八九一
計	四、九八九、九四五	五一三、二八五、七六〇

チ　內國貿易移入主要貨物

品名	數量（噸）	價額（圓）
砂糖	二一五、九九七	六三、五二八、九一二
石炭	二、〇五一、四四七	二七、六九八、五二八
米	八九、五七四	一八、三四三、二一一
鐵	一五九、五九七	一七、四四三、八九四
木材及板	二八八、一四五	一三、〇〇三、九九〇
罐詰食料	一五、九六九	一二、九五四、一四七

機械及同部分品	六、八二八	八、四七四、七二八
礦油	七二、七六六	六、四九四、三一〇
蔬菜及果實	八八、三三三	五、三八六、五三五
パルプ	三三、四六五	五、三三六、二四八
其の他諸品	九九八、六四五	八〇、三八三、一三七
計	四、〇二〇、七六八	二五九、〇四七、六四〇

リ　外國貿易輸出主要貨物

品名	數量（噸）	價額（圓）
生絲	三二、八九九	六〇一、九二八五一六
絹織物	九、〇五八	四七、四〇〇、二六二
罐詰及罐詰食料	二六、四九七	一二、七〇一、七一二
屑絲	四、一〇七	一一、六四〇、一二〇
砂糖	五三、九四五	九、七八一、四三〇
穀粉及澱粉	五四、九二三	九、二六一、三六三
翫具	二〇、二七一	五、五五四、三〇三
綿織物	六、三二三	四、六二四、三九二

和紙及洋紙	四、八八五	二、七三七、〇四九
綿織絲	一、三〇七	二、四八一、二四三
其の他の諸品	一七二、五五〇	五四、一九五、二五九
計	三八六、七六五	七六二、三〇五、六四九

ヌ 外國貿易輸入主要貨物

品名	數量	價額
棉花	一〇一、七五四噸	九九、一七五、二八〇圓
小麥	四六一、四九七	五八、〇七四、六四八
機械及同部分品	三九、八〇九	四五、二〇四、六六六
鐵	四三六、六四二	四三、四〇三、〇七二
木材及板	一、二六二、八五九	四二、五〇一、四二〇
砂糖	二一二、一三三	四一、一三一、二三八
豆糟	四六四、〇〇八	三九、〇一九、二〇五
羊毛	一一、一五二	二二、八九四、九一〇
自動車及同部分品	二九、九七六	二〇、九三八、七四〇
硫酸安母尼亞	一〇八、八九九	一六、三一八、二一〇

其他ノ諸品	二、一三一、三二二	三一三、〇〇一、三二一
計	五、二六〇、〇五一	七四一、六六二、七一一

第六章 港灣の修築

一 最初の修築工事

横濱港の設計は、最初英人ブラントン氏次で蘭人デレーケ氏等に依て立案され明治十九年內務省顧問パーマー氏の修正したもので、同二十二年八月縣廳內に築港掛を置き同九月修築工事に着手し二十九年五月に竣工した、其工事に於ては東及北の防波堤合計延長二千十四間を築造し、港口を百三十三間として約百五十萬坪の水面積を抱擁し、巾十間三分長四百三間の鐵棧橋を架設し、港內を浚渫して船舶の碇繋に便にした、其工費は約二百三十四萬七千餘圓を要したのである、彼の幕末、下ノ關に於ける長藩の外國軍艦砲擊に關係し、幕府が英、米、佛、蘭の四ヶ國に支拂つた償金の內米國が受けた七十五萬弗の償金を、元利から諸費を差引いて金百餘萬圓を、明治十七八年頃我政府に返還して來たので、政府は之を

國際的事業に投ずるのを可とし、前記の工事の財源の一部に充當したのである、而して陸上稅關設備工事は明治十八年現在の位置に廳舍、倉庫、上屋を建設し、海岸物揚場の整理及建物增築等漸次改良を施し、艀船溜には數基の小棧橋を架設し、起重機六臺を設置し構內鐵道約五哩を布設した。

二 第一期海面埋立工事

明治三十二年大藏省臨時稅關工事部設置せられ、同五月起工同三十八年十二月竣工し、工費二百三十萬四千餘圓で工事の主なるものは、面積四萬八千百五十坪の埋築、延長五百十七間の岸壁の築造、延長六百七十九間の物揚場及護岸の築造竝萬國橋の架設等である。

三 第二期海面埋立及陸上設備工事

明治三十九年大藏省臨時建築部設置せられ、同四月起工大正六年十一月竣工し工費八百十七萬二千餘圓で工事の主なるものは、面積二萬千五百七十八坪の埋築、延長六百十四間二分の岸壁、延長百七十四間の物揚場及護岸上屋倉庫、道路、鐵道起重機、橋梁（新港橋、鐵道橋）等の築造及棧橋の改築等である。

四 第三期修築工事

大正十年內務省橫濱土木出張所設置せられ、同四月起工し十ヶ年繼續事業として施行中、彼の大震災により一時中斷を見たが、十四年四月より再び工事に着手し、目下着々進行中である、工事費豫算は千三百四十五萬圓で新設備計畫の大要を擧ぐれば左の如くである。

外國貿易設備

イ 埋立地面積　十萬千百九十六坪

ロ 繫船岸壁延長　七百七十五間

內

番號	水深（尺）	延長（間）
一號	四〇、〇	一五九、五
二號	三六、〇	一五五、六
三號	三三、〇	二八九、九
四號	三〇、〇	一七〇、〇

ハ　小岸壁及斜面物揚場　延長千十九間

内國貿易設備

イ　埋立地面積　三萬三千九百二十五坪

内

表高島町　一萬八千八百二十七坪

山内町　一萬五千九十八坪

ロ　繫船岸壁　延長　五百八十九間

内

區別	水深（尺）	延長（間）
表高島町	二四、〇	三五六、四
山内町	二四、〇	二三二、六

ハ　小岸壁及斜面物揚場　延長　三百九十六間

内

表高島町　三百二十間六

山内町　七十五間四

港内浚渫及浮標設備

前記岸壁設備に必要なる浚渫を施し、繫船浮標十八個（一萬噸級用二、五千噸級用四、三千噸級用十二）を設置する此の外港内浚渫工事は縣、大藏省及内務省に於て明治三十年より大正九年に亘り別途を施行し工費四百八十萬六千餘圓を要した。

五　震災復舊工事

第三期修築工事を起し着々進捗中であつたが、既往三十餘年を閲し、工費約千八百萬圓を投じた設備が、大震災の爲め殆ど全く破壊されたので直ちに水陸連絡の方法を講じ、同時に被害狀況を調査して復舊計畫を立て、防波堤、岸壁、棧橋、其の他の工費九百二十五萬五千餘圓、上屋其の他の工費六百六十二萬二千餘圓を以て、震災後僅に五十日を過ぎたる、大正十二年十月二十一日之が工事に着手した、前者は内務省横濱土木出張所、後者は大藏省營繕管財局に於て擔當されたのである、爾來工を進めて防波堤は十三年五月に、岸壁は十四年三月に、橋梁の復舊及掃海は十三年中に各々完了した、又棧橋は十四年二月着手同九月竣功し上屋其

の他の工事も大部分進捗して、目下上屋の殘部、道路、水道等の工事中である、此工事に於て岸壁線一部を前進せしめた結果新に二千六百餘坪の重要なる埋築地を得た、其の構造の如きは震災前に比し一層强固なものとしたのである。

六　擴張計畫

第三期修築工事は、昭和五年を以て竣功する豫定であつたが、港勢の進運は更に大擴張をなすの必要に迫られたので、内務省は大正十四年十二月臨時横濱港調査會を開設し、審議の結果、大正十五年二月左の決定案を得た、而して其の工費豫算額實に五千萬圓に上るのである。

イ　大防波堤

新山下町地先より東北東の方向に左記延長を有する大防波堤を築造し、現内港前面より鶴見川口に至る間の水面を掩護し、新に約二百萬餘坪の錨地を増加することゝした。

防波堤總延長　二千二百五十間

内

南防波堤　千百間

北防波堤　千百五十間

右南北兩堤の中間に幅員百五十間の港口を設け、北防波堤の中間に幅員二十五間の副口を置くのである。

ロ　臨港地埋立及錨地浚渫

現在の港内より將來計畫にかゝる京濱運河に通ずる水路を設定し、其の幅員を七十間と定め、水路の兩側に左記の埋立地を造成し、前面區域は上屋、倉庫、鐵道、其他港灣に要する設備地に供し、背面區域は工場地に當て、水陸聯絡の至便を利用し、横濱を工業化することゝした。

埋立面積　八十四萬餘坪

内

港灣設備用地　二十萬坪

工場用地　六十四萬餘坪

港灣設備地は前面を節形に造り、繫船岸壁千四百間、小岸壁千百二十間、其の他

若干の物揚場を築設することゝした、工場用地は三地區に分割して造成し、各地區間には幅員五十間の運河を設け、其の沿岸は物揚場に利用することとした、港內錨地及運河水路は適當に浚渫し、土砂は埋立地に利用することゝした。

ハ　艀船溜

港灣設備地帶の東西兩側に波除堤を築造し、十二萬七千坪の艀船溜を設くることゝした。

ニ　貯木場

工場地帶の東端鶴見川沿岸部に、水面積三萬五千坪の貯木場を設くることゝした。

ホ　危險物置場

新山下町地先外防波堤の內側に、九萬八千坪の埋立地を造成し危險物置場に充つることゝした。

本擴張計畫に對する一ヶ年の荷役能力は左の如くである。

接岸荷役　三百十八萬噸

沖荷役　千百三十一萬噸

合計　千四百四十九萬噸

七　擴張工事

前項擴張計畫の一部は既に實施の緒に就いたのである、以下之れを概說する

イ　大防波堤

大防波堤の築造計畫延長二千二百五十間中千二百間（南部五百五十間 北部七百間）を築造すべき豫算は、第五十二帝國議會を通過した、卽ち現在實施にかゝる第三期修築工事に繼續費八百三十二萬圓を追加し、施工年度を昭和十二年度迄七ヶ年延長した。

ロ　工場用地埋立

子安生麥地先埋立工事は市營を以て實施することゝし、大正十五年十一月免許を受け、同月市會の決議を經、千四百九十五萬餘圓の豫算を目途として直ちに實施計畫の調査に着手した、昭和二年度には工場の設備、船舶機械の購入及護岸の一部の施工をなし同三年度より埋立を開始し、同八年度には全部の竣

功を見る豫定である。

埋立地は子安町地先より東方鶴見川口に至る地先に於て、左記の通り第一、第二、第三、の地區に分割し、各地區は周圍を繫船物揚場とし（正面海岸は當分波除胸壁を設く）運河は其幅員を四十間乃至五十間とし接岸部は朔望干潮面より水深八尺以上、澪筋は同上十五尺以上とし、護岸は全部永久的構造とし且埋立地區に對する各區劃割は何れも運河又は海に面し物揚場の利用を充分ならしめた、尚陸上交通に對しても意を用ひ、道路、橋梁を適當に配置するは勿論將來鐵道を前面港灣設備地へ連絡し之に附帶する操車場等を豫想し、又專用引込線は各地區の背面を通ずる幹線道路沿に其敷地を配置し、專用引込支線の分岐を自由にし、工場地としての利用を遺憾なからしむるのである。

埋立地の總面積　六十四萬千四百三十八坪

内

第一地區（子安町地先）　十一萬三千四百十二坪

第二地區（同　　　）　十四萬九千二百五十七坪

第三地區（生麥町地先）　三十七萬八千七百六十九坪

工場利用敷地總面積　四十五萬四千八百九十九坪

内

第一地區　八萬八千八百二十坪

第二地區　十一萬六千九十九坪

第三地區　二十四萬九千九百八十四坪

第七章　市港灣部

港灣勢力の消長は港灣を生命とする本市の利害休戚に絶大の關係が有り、而かも之れが進展に順應して急速に施設經營すべき幾多の事業かあるので、本市は大正十四年七月十六日港灣部を設立した、目下施行しつゝある主要なる事務は港灣に關する市の行政、港灣の利用に關する各種の調査、市の港灣に對して採るべき助長策の研究、港灣及附帶運河に關する工事の調査及施行、通船の營業港灣統計の調査等である。

以上港灣部の事務の一部に就きては其の大要を關係の章に記載したから、茲に之を省略することゝし、只統計事業及臨時横濱港灣委員會の件に關し、左に略記する。

一　港灣統計事業

從來港灣行政上の唯一重要なる統計就中、沿岸內國貿易に適確なる計數の見るべきものかなかつたので、本市は進んで基礎的調査をなすの要を認め、大正十五年一月一日より事業に着手し、昭和二年度に於ては三萬六千九百余圓の豫算を計上し、水上陸上共總て實地に就き日々材料を蒐集し、月報其地を發行して關係者に配布するの外、昭和二年度分より希望者に實費を以て頒つことゝし、以て港勢の進展を資け、關係者の羅針盤たることに努めて居るのである。

二　臨時横濱港灣委員會

內務省では曩に臨時横濱港灣調査會を開催して、横濱港に對する將來の計畫及方針の大要を決議したが、本市では尙細目に亘りて審議することが多いので、大正十五年三月題目の樣な會を設置し、其委員には本港に關係し、直接活動して居ら

れる官民の重もなる方々に市長より囑託した。第一回の會議では目下本港の最も困難してゐる艀船溜及貯木場の問題を審議した。

結　言

以上述べ來つた通り現今の横濱は、協力一致復興に努力してゐる、幸に海外諸國の同情、我國民竝政府の援助及市民の努力に依つて、漸次形の上に整頓して來た、然し財力の復興は未だ容易の業でない、之を整ふる一大要素は横濱を工業化することにある、我國の最大消費地を控へた横濱、水陸連絡の最大利便を有する横濱、勞力の供給其の他天然資源に豐富なる横濱は、此の天惠地利に依つて港灣設備を充實すると共に、低廉なる工場敷地の造成に因り工業を振興し、財力の復興を期待することが出來る、此上運河の施設に依りて帝都との水運連絡を完成すれば、京濱一帶共存共榮の實を舉ぐることも容易である、之れ軈て横濱港が帝國の玄關として將又世界の著明なる商港としての一大使命を全ふすることになるのである。

（終）

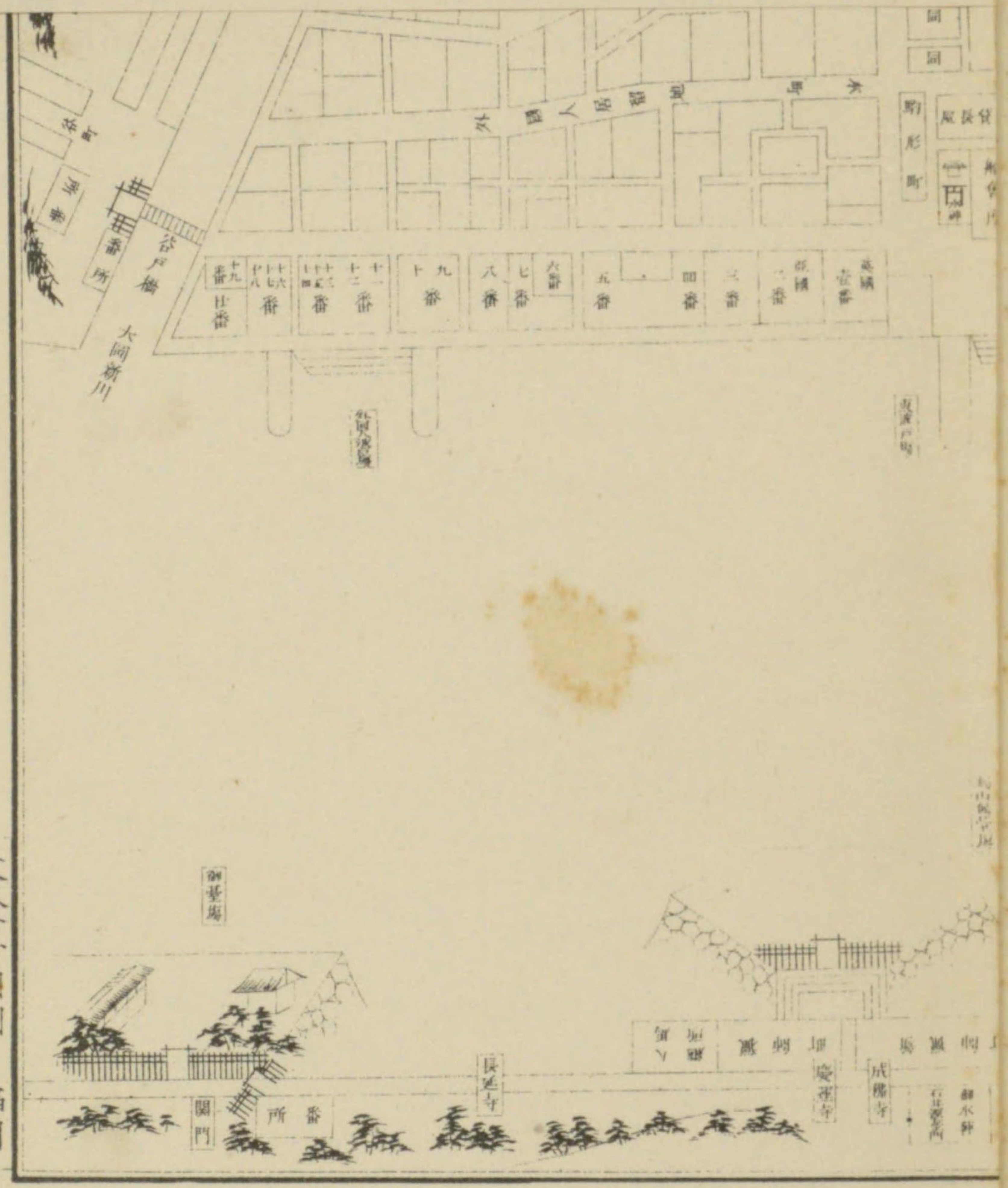
横濱新田
畑
田

嘉永七年ペルリ提督上陸當時(開港前)横濱村外六ケ村圖

嘉永七年ペルリ提督上陸當時(開港前)横濱村外六ヶ村圖

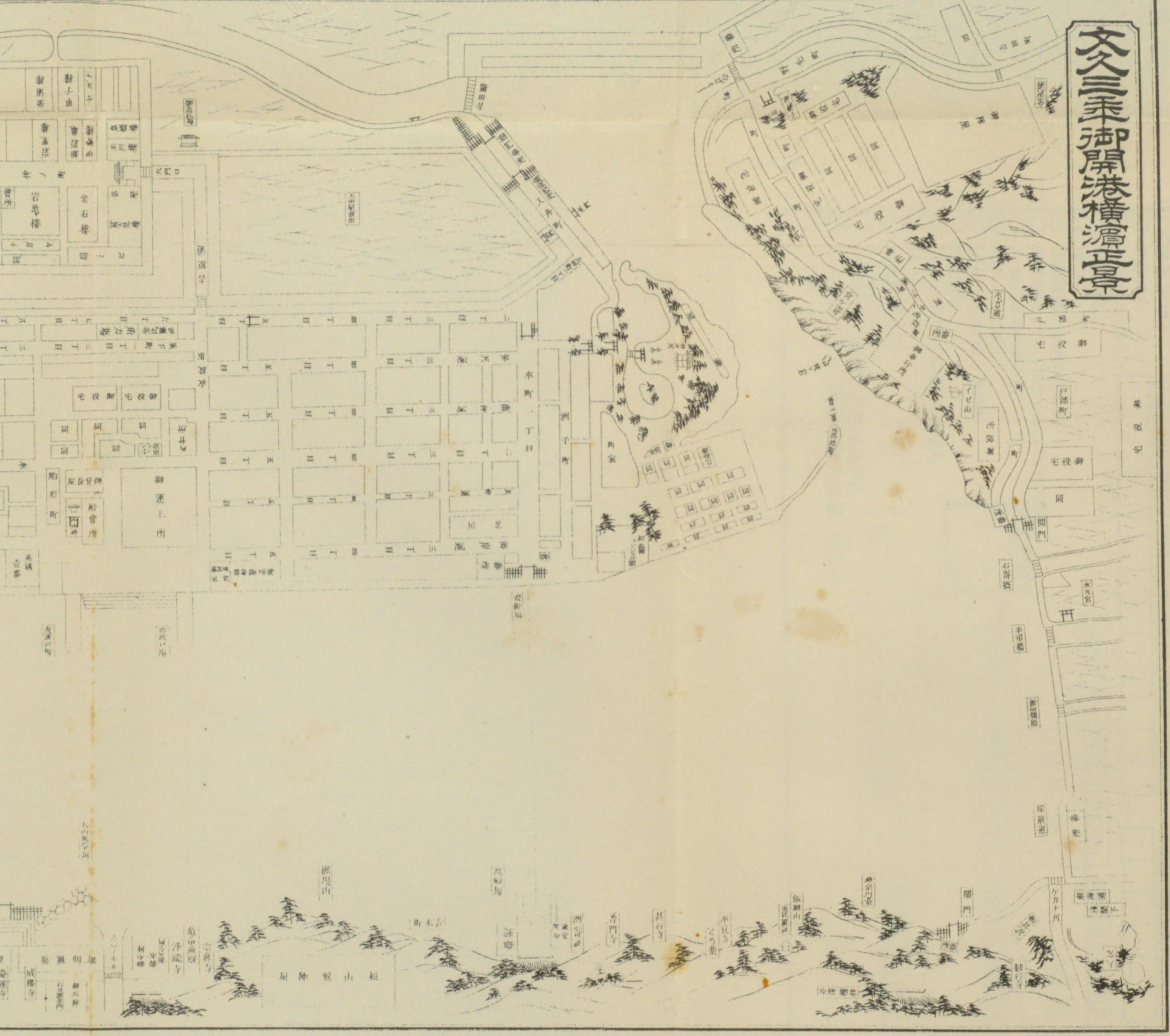
太田村
吉田新田
横濱新田
太田屋新田

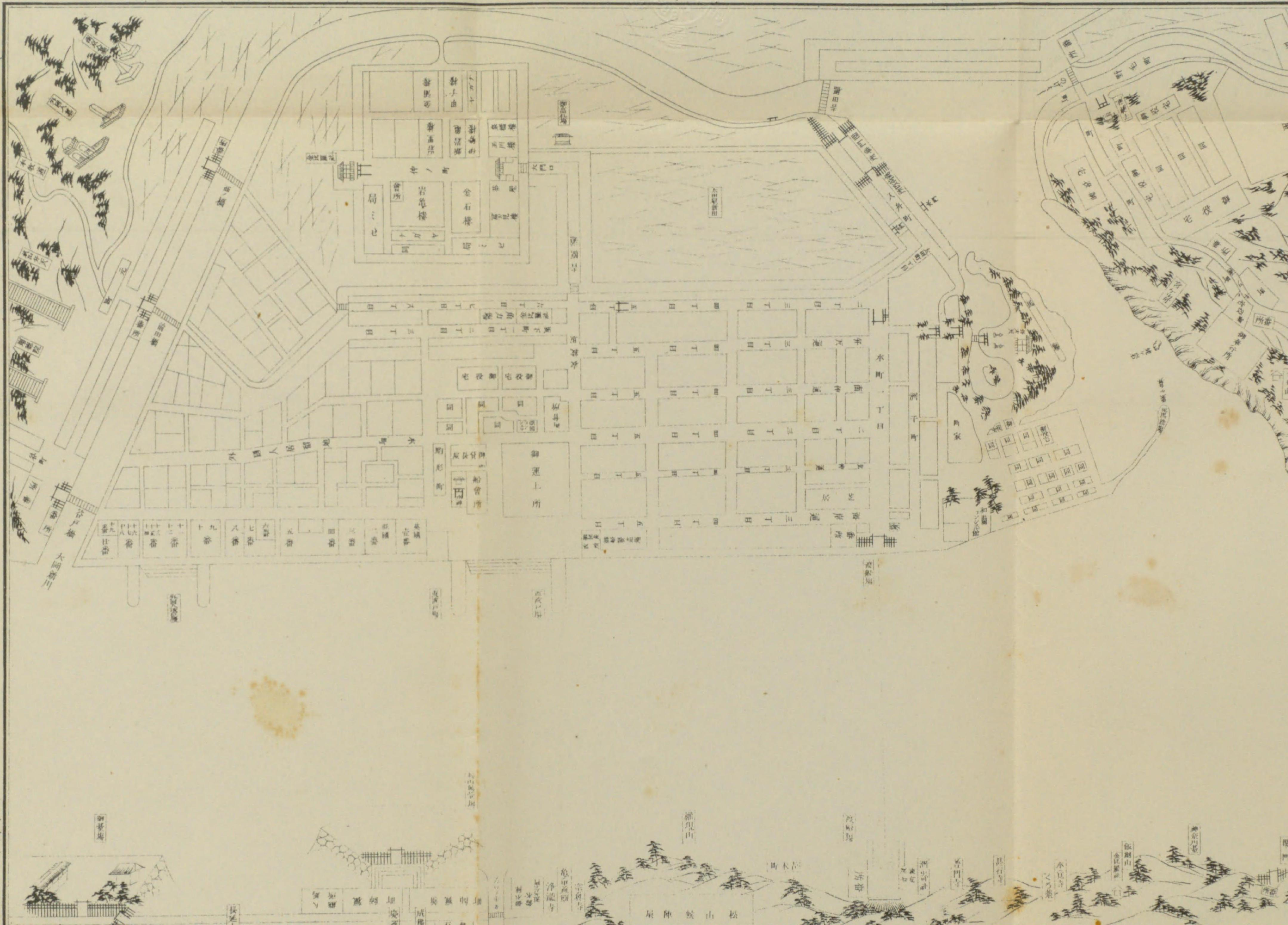
北
東
太田村
吉田新田
太田屋新田
横濱村
横濱新田
沼



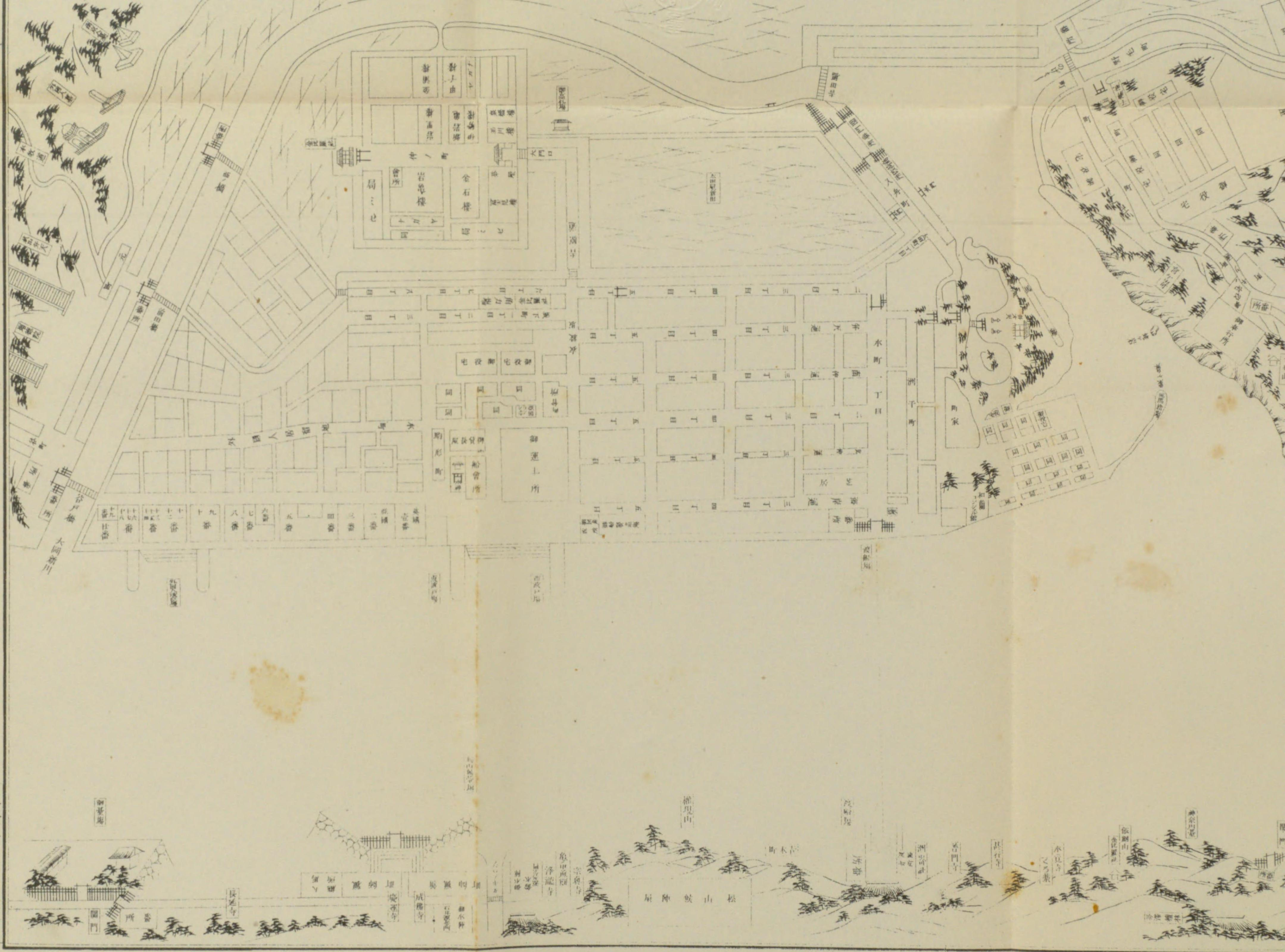
文久三年創刻　縮圖

文久三年御開港横濱正景


文久三年御開港横濱正景



文久三年創刻



文久三年創刻　縮圖

明治二十三年横濱實測圖

明治二十三年横濱實測圖

明治二十三年横濱實測圖
凡例
市町
外國人居留地
鉄道線路
砂地
樹木
芝地
官有地
道路
山
河海
橋梁
郡界

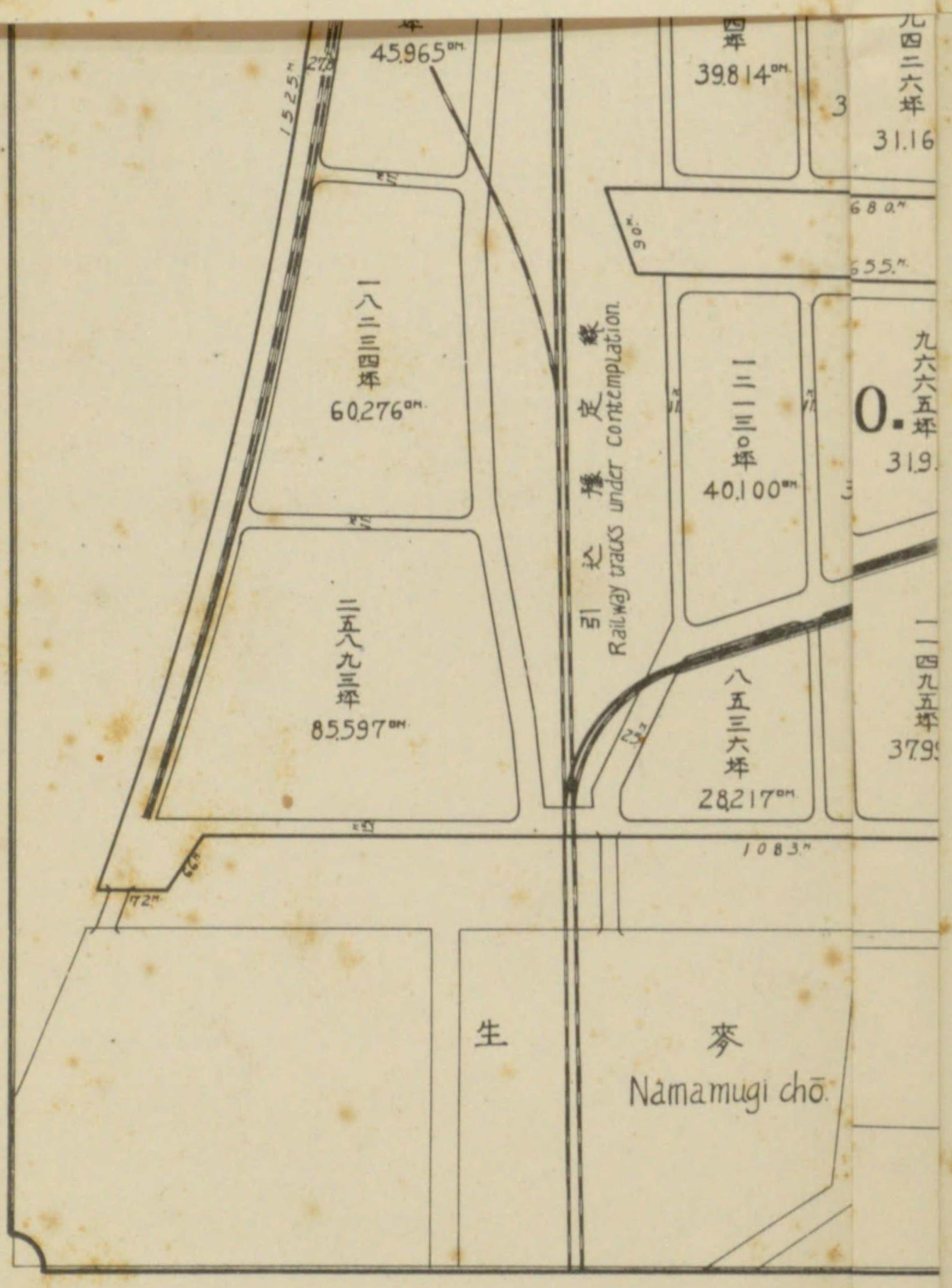
明治二十三年横濱實測圖
凡例
市町
官有地
外國人居留地
道路
鐵道線路
山
砂地
河海
樹木
橋梁
芝地
郡界

京濱沿岸圖
THE MAP OF THE SHORE LAND INCLUDING TOKYO AND YOKOHAMA ALONG TOKYO-BAY.
東京灣
Tokyo Bay.
東京
Tokyo
(Sumida River.)
(Tama River.)
(Harbour Limit.)
Kamata
川崎
Kawasaki
橫濱
Yokohama
Zyuniten Hana
橫濱港
Yokohama Harbour

横濱港
Yokohama Harbour
十二天鼻
Zyuniten Hana
本牧
Honmoku

橫濱市埋立計畫並附近圖
縮尺 二万二千分ノ一
THE MAP OF THE SHORE LAN
AND YOKOHAMA ALONG
隅田川 (Sumida River)
Omori
東京 TOKYO
Kamata
川崎 Kawasaki
淺野造船所 (Asano Shipbuilding Co.)
潮田 Ushioda
鶴見川 Tsurumi River
橫濱港 Yokohama Harbour

横濱港
Yokohama Harbour
Higashi Kanagawa
Takashima
Yokohama
Higashi Yokohama
伊勢山
凡例
市埋立計畫
工事中
將來計畫
街路計畫線


45,965 sq.m.
39,814 sq.m.
一八二三四坪
60,276 sq.m.
二五八九三坪
85,597 sq.m.
Railway tracks under contemplation
一二一三〇坪
40,100 sq.m.
八五三六坪
28,217 sq.m.
生 麥
Namamugi chō.

市埋立計畫圖

THE PROPOSED PLANS OF THE MUNICIPAL RECLAMATION.

THE PROPOSED PLANS OF THE MUNICIPAL RECLAMATION.

市埋立計畫圖

THE PROPOSED PLANS OF THE MUNICIPAL RECLAMATION.

THE PROPOSED PLANS OF THE MUNICIPAL RECLAMATION.

昭和二年五月二十七日印刷
昭和二年六月　二　日發行

（非賣品）

横濱市港灣部

東京市牛込區市谷加賀町一丁目
印刷者　根本力三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目
印刷所　株式會社秀英舍

188
613